



# エンドウ(マメ科エンドウ属)

エンドウには若いさやを食べるサヤエンドウ、実が大きくなり、みずみずしいさやのスナップエンドウ、そして若く充実した豆を取る実取りエンドウがあり、それぞれ目的に応じた品種を使います。

【品種】サヤエンドウでは、「ニムラ白花きぬさや」(みかど協和)、「砂糖エンドウ白星」(松永種苗) など、スナップエンドウでは、「ニムラサラダスナップ」(みかど協和)、「スナック753」(サカタのタネ) があります。

【畑の準備】 マメ科野菜は、同一の畑で連作すると生育障害が出やすく、4〜5年はマメ科を入れていない畑を選びましょう。種まき2週間前に畑1平方m当たり苦土石灰100gを全面に施し、土とよく混ぜておきます。

次に、1週間前に畝幅120cmを取り、深さ20cmの溝を掘り、この溝1m当たり化成肥料(NPK各成分で10%) 100gと堆肥1kgを入れ、土とよく混ぜて幅40〜50cmの畝を作ります(図1・2)。

【種まき】 一般地では10月中旬〜11月上旬が適期で、早まきして年内に生育が進み過ぎないことが大切です。じかまきでは、株間30cm程度、1カ所4〜5粒

図2 畑の準備2

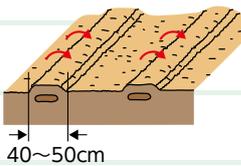
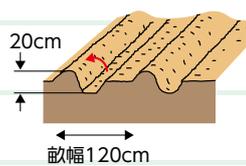


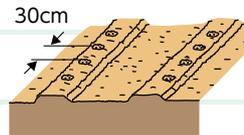
図1 畑の準備1



をまきます(図3)。発芽の頃に鳥害を受けやすい

ため、不織布をべた掛けして保護します。発芽がそろったら2本を残し、他は間引きします。なお、小さなポットで育苗して、本葉2枚の頃、畑に植え付けることもできます。

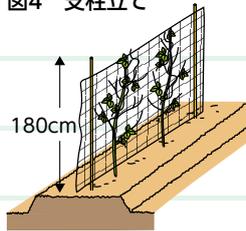
図3 種まき



【追肥】 春先に生育の勢いが良くなり始めた頃と開花始め頃にそれぞれ化成肥料を畝1m当たり10g程度、スナップエンドウ、実取りエンドウではさらにさやの肥大期にも同様に追肥します。追肥後は株元に土寄せをしておきます。

【支柱立て】 早春から生育が盛んになり、つるあり種ではつるを絡ませるため支柱を立てネットを張ります(図4)。

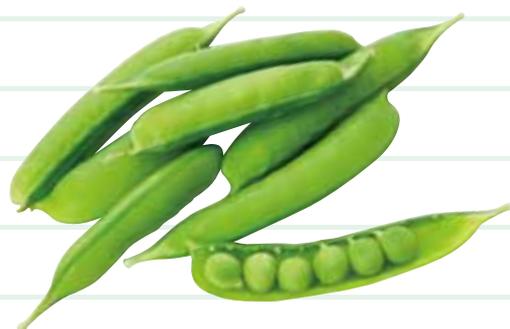
図4 支柱立て



【病害虫の防除】 さやができる頃からハモグリバエが多発しますので、マラソン乳剤などを使用基準に従って防除します。うどんこ病には、カリグリーンなどの農薬で予防します。

【収穫】 サヤエンドウは、子実の肥大が始まる頃で、開花後15日前後、スナップエンドウはさやが鮮緑色で豆が肥大して断面が円形となる開花後25日前後です。

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。



## 栽培計画

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
露地栽培 (寒冷地)			○				●					
露地栽培 (温暖地)										○		

○ 種まき ● 収穫

● 種まき・育苗 開花から収穫期まで、できるだけ長く適温期間になるように種まきする時期を決めます。マメ科の種を水に浸してからまくと、急激な吸収によって種皮が破れて発芽を損ねる場合があります。水に浸さず種をまくようにしましょう。3〜4粒ずつの点まき、株間を30cmほど空けましょう。鳥に狙われやすいため、必ず寒冷紗などで種を守りましょう。

● 土作り・植え付け・水やり・収穫 日当たりを好みます。風通しの良い場所を育てましょう。プランター栽培の場合は、野菜用の培養土で育て、畑栽培の場合は、堆肥や元肥を入れる2週間前位には石灰を入れ耕し、その後堆肥と元肥を入れ土になじませましょう。エンドウは酸性土壌に弱いので、石灰をまいて酸度を調整します。

基本的に追肥するのは、1回目は春ごろにつるが伸びて支柱を立てる時期、2回目は花が咲き始めたころで、3回目はエンドウの収穫が始まるころの3回与えます。種をまいた時はしっかりと水を与えますが、基本的に乾燥気味に育てましょう。種まきから半年ほどたった頃の4月以降が収穫のスタートです。実がぼんぼんに膨らんだ頃に収穫します。莢にしわが出はじめたころが目安です。

JAグリーン津店が教える！  
エンドウ栽培のポイント

エンドウにはたくさんの種類があります。自分の栽培環境に適した品種を選びましょう。適期を守って種まきをし、中性〜弱アルカリ性で過去にマメ科の植物を育てたことのない土で育てることがポイントです。エンドウは、15〜20度の涼しい気候を好みます。本格的に暖かくなる前に、支柱を立てましょう。11月下旬頃まで草丈15〜20cmくらい育て、12月下旬〜2月頃になったら寒冷紗や不織布で霜よけをしておくと安心です。

JAグリーン津店  
グリーンアドバイザー認定  
城博一